

氏名	酒本 あい
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 5 6 5 6 号
学位授与の日付	平成30年3月23日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目	Slow Fetal Heart Rate before Miscarriage in the Early First Trimester Predicts Fetal Aneuploidy in Women with Recurrent Pregnancy Loss (不育症女性において、流産前の遅い胎児心拍数は胎児染色体異常を予測する)
--------	---

論文審査委員	教授 塚原宏一 教授 野田卓男 准教授 吉村禎造
--------	--------------------------

学位論文内容の要旨

不育症において、流産の原因が胎児の染色体異常であったか否かの情報は管理上重要である。我々は不育症女性 223 例について、流産前の胎児心拍数と、胎児染色体数的異常の関係について検討した。

対象は、生児を得た 110 例（生児群）、流産に至った 113 例で、さらに流産群を、絨毛染色体検査による胎児の核型に基づき、胎児が正常核型の「流産-正常核型群」35 例、13,18,21 トリソミー、ターナー症候群、クラインフェルター症候群の「流産-染色体数的異常 I 群」18 例、I 群以外の「流産-染色体数的異常 II 群」60 例に分類した。

受精後 36 日から 49 日の期間において、生児、流産-正常核型、流産-染色体数的異常 I 群では胎児心拍数が増加し、各群間に有意差は認めなかった。流産-染色体数的異常 II 群では胎児心拍数は増加せず、他の 3 群と有意に異なった ($P < 0.01$)。

妊娠初期に通常の胎児心拍数増加がみられない場合には、流産の原因となる胎児の染色体数的異常が存在する可能性が示唆された。

論文審査結果の要旨

不育症 (recurrent pregnancy loss) において、流産の原因が胎児の染色体異常であるかどうかの情報は母体管理の上で重要である。本研究者は、後方視的に胎児の核型と胎児心拍数パターンを比較し、流産前の胎児心拍数より胎児の異常核型を推測できるかどうか検討した。

対象は不育症女性 223 例であった。生児を得たのは 110 例（「生児群」）、流産に至ったのは 113 例であった。そして、後者の群は絨毛染色体検査による胎児の核型に基づき「流産-正常核型群」35 例、「流産-染色体数的異常 1 群」18 例、1 群以外の「流産-染色体数的異常 2 群」60 例に分類された。

受精後 36 日から 49 日の期間において「生児群」、「流産-正常核型群」、「流産-染色体数的異常 1 群」では胎児心拍数が増加したが、各群間に有意差は認められなかった。「流産-染色体数的異常 2 群」では胎児心拍数は増加せず、他の 3 群と有意に異なった。妊娠初期に通常の胎児心拍数増加が見られない場合、流産の原因になる胎児の染色体数的異常が存在する可能性があることを示す結果であった。

今回の結果は、絨毛染色体検査が行えない場合の診断に一助になる手段を提示した。妊娠初期の母体管理において、重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。